

はまぐみ小児療育センターだより

新潟県はまぐみ小児療育センター ☎951-8121 新潟市中央区水道町1丁目5932番地 電話 (025) 266-0151

皆様、本当にありがとうございました

新潟県はまぐみ小児療育センター

看護部長 本間倫子

早いもので、はまぐみ小児療育センターに着任してからあつという間に三年が経ち、このたび六十歳を迎え退職することになりました。

センターにくる前は急性期病院で二十年以上勤務しておりましたが、医療と福祉が融合するのははまぐみ小児療育センターで働くのは初めての経験で、分からないことも多く、日々多くの方々に助けていただき、多くのことを学ばせていただきました。

ここでは、入院という枠を超え、生活全般にわたる支援がいかに重要であるかを実感しました。センターで生活する子どもたちは、泣いたり、怒ったりすることもありますが、それでもふとした瞬間に見せてくれる笑顔や行事の時に職員と一緒に笑っている姿、看護学生さんが来ると職員にも見せないような、とっておきの笑顔を見せてくれることもあります。その一つひとつが本当に可愛らしく、三年間大きなやりがいを感じてきました。

長い歴史を持つセンターのほんの一部分しか理解できなかったかもしれませんが、子どもたちが笑顔で過ごせるよう、その一助となれていたなら幸いです。

新型コロナウイルス感染症が五類へ移行する時期に着任し、混乱の中で感染対策を継続しながら、徐々に人との関わりを取り戻していく過程は決して容易ではありませんでした。人との接触を極力避けていた生活から、以前の生活へ戻すことの難しさを、現場で強く感じました。

感染対策とは少し異なりますが、これまで登校しても給食の時間はセンターに戻って食べていた小学生が、現在では週に一度ではありますが、学級のみならず一緒に給食を食べる時間を持つようになっていきます。友だちと目を合わせ、周囲の雰囲気を感じながら食事をするのは、子どもたちにとってどれほど楽しい経験となっていることでしょう。表情が豊かになり、成長が感じられるようになったとスタッフから聞かされたとき、日常の経験や体験が少しずつ広がっていることを嬉しく思っています。

通勤は決して短い道ではありませんでしたが、海沿いを走りながら四季折々の景色を眺める時間は、私にとって心を整える大切な時間でした。

振り返れば、とても良い看護部長であつたとは言えないかもしれませんが、それでも、分らないことの多い私に辛抱強く付き合ひ、支えてくれた職員の皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。

これから第二の人生を迎えますが、少し新しいことにもチャレンジしていきたいと考えています。このセンターで得た経験と出会いは、今後の人生においても大切な財産です。

これまで支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。



職員研修を開催しました

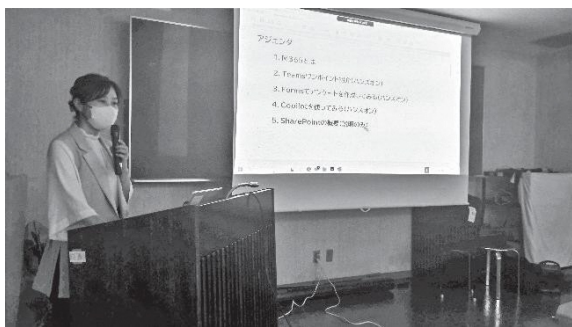
8月22日に、県知事政策局参与(デジタル技術活用担当)である諏方麻衣子氏を講師にお迎えし、職員を対象とした研修会を実施しました。今回のテーマは「業務へのデジタル技術の導入について」です。昨年度から導入されたMicrosoft365を使用した業務効率化につながる具体的な機能や活用方法を、実際にパソコンを操作しながら学ぶ「ハンズオン」形式で行いました。

当センターでは、日頃から職種や部署の垣根を越えた情報共有を大切にしなが業務を行って頂いています。しかし、業務の複雑化や関与する職員の多さをはじめとする様々な要因で、情報のやり取りに困難が生じたり、情報共有のタイミングがずれたりする場面も見られていました。そこでこれまで培ってきたコミュニケーションの基盤を活かしながら、双方向性のあるデジタルツールを活用することで、情報共有の質を更に高めることを目的としました。

研修では、日々の業務に直結するMicrosoft365のアプリに関する操作方法等を、実際に体験しながら学びました。講師による実演を交えた説明により、「いつか使ってみよう」ではなく、「明日から使える」内容になったのではないかと思います。

研修後のアンケートでは「実演してもらいながらだったので、とても分かりやすく理解しやすかった。日々の業務の中で積極的に活用していきたい。」「これまで数時間かけてやっていた業務がものの数秒で大方処理できることを知り、衝撃を受けました。」等、多くの前向きな声が寄せられました。

今回の研修は、デジタル技術を取り入れながら業務の質を高め、より良い支援を提供していくための大変貴重な機会となりました。今後も職員一人ひとりが新しいツールを積極的に活用し、利用者の皆さまにとってより実りのある支援に繋げていくよう努めてまいります。



発達障がい支援セミナー

発達障がい者支援センター RISE からは、発達障がいへの理解を深め、地域の支援力向上につながる取組みの一環として、12月4日(木)に「発達障がい支援セミナー」をオンライン形式で開催しました。今回は、山陰発達障害当事者会スモステの会代表であり、発達障害の支援者としても支援に携わる難波寿和先生を講師にお迎えし、「大人の発達障がいの理解と対応―発達障がい当事者&支援者の立場から―」をテーマにご講演いただきました。

講演では、難波先生自身のこれまでの経験や踏まえ、発達障害のある方が日常の中でどのような「生きづらさ」を感じやすいのか、支援を行う際にどのような視点や関わり方が大切になるのかを、具体的なエピソードとともにわかりやすく紹介いただきました。特に、「発達障害は今、困りごとが生じる障害であり、今の状況に合わせた丁寧な配慮や対話が不可欠である」というメッセージは、多くの参加者に強く印象づけられました。合理的配慮の工夫例や当事者の自己理解を助けるアイデアなど、支援の現場で明日から活かせる具体的な示唆も多数盛り込まれていました。

後半には、新潟県内在住の発達障

害当事者とその保護者を交えた対談も行われ、当事者の率直な思いや家族としての葛藤、進路や就労に向けた取り組みなどが共有されました。専門職の視点と当事者・家族の実感が交わることで、より立体的に発達障害の理解を深める貴重な時間となりました。

参加者からは、「自分にも思い当たることが多く、発達障害がより身近に感じられた」「当事者のリアルな声に触れられ、多くの人に聞いてほしい内容だった」といった感想が寄せられ、たいへん好評でした。

RISEでは、今後も皆さまのご意見を踏まえながら、発達障害理解の促進と地域支援力の向上につながるセミナーを継続して開催してまいります。

改善の先には改善しかないが、工夫の先には、生きやすさがある。

改善の先には更なる改善しかない。どこまで改善しても、定型や一般の人にはなれないし、すさまじいスピードで一般の人は成長しているから、人と比べることはあきらめた

自分がよりよく生きるための工夫をすることに注力
頭を下げることで、人間関係を保つ努力をすること

新成人おめでとうございます

祝 あすか新成人の 保護者様メッセージ

今年めでたく成人を迎えられたあすか利用者さんのご家族からメッセージをいただきました。

吉川 ひかりさんのご家族

あすかにて心温まる成人を祝う会を催していただき、ありがとうございます。これまでの二十年間、ひかりはさまざまな困難を乗り越えてきました。その間、はまぐみ小児療育センターの皆様をはじめ、たくさんの方々を支えていただき感謝しております。これからも、ひかりが笑顔で穏やかに過ごせることが家族の願いです。引き続き職員の皆様にはお世話になりますが、よろしくお願ひいたします。

星山 大成さんのご家族

二十歳おめでとう。二十年、振り返ればあつという間だった様に感じます。生まれて直ぐに入院、手術。辛く痛い思いを沢山経験させてしまい、頑張つてと声を掛けることしかできない悔しかった日々。

今では、周囲の人々に支えられ、穏やかに過ごせることに感謝しています。これからも笑顔を絶やさず、色々な経験をjして、楽しく過ごせた

らと思ひます。今後もしよろしくお願ひします。

通所卒園おめでとうございます

通所卒園生の保護者様 メッセージ

通所を卒園し、この春一年生になる皆さんのご家族からメッセージをいただきました。

井上 絢太さんのご家族

初めはハビリで大泣きし、緊張した様子の絢太でしたが、今では汗だくになりながらはしゃぎ、最高の笑顔をみせるようになっていました。そんな姿を見ると、絢太が自分らしくいられる大切な場所だったと感じます。この五年間、温かく一緒に成長を喜んでくださった先生方、職員さん、ママ達に出会えて、私達家族は幸せです。本当にありがとうございます。

大久保 あかりさんのご家族

通所にはずつとお世話になっていました。何歳からだったか。もはや思い出せません。季節に合わせた催しや歌、飾りつけ、どれも工夫されていて、あかりは喜んでいました。

歩行できなかったり、疲れ易かったり、外や公共の施設では活動が制限されがちで、親としては申し訳ないような感覚になってしまっているのですが、ここに来ればあかりのペースを重視して、自由にいられることが有難かった。大切な居場所でした。ありがとうございます。

小俣 晴さんのご家族

約四年間、通所にお世話になりました。通所に通う前は周りに似た状況の人がおらず、孤独に感じていましたが、素敵な先生方、ママさん達にお会いできて、自分一人で背負わなくてもいいんだと思えるようになりました。

日々の悩みがなかなか尽きず、相談してばかりでしたが、その度に助けていただきました。そして毎週楽しく、元気をもらえる場所でした。晴に関わってくださった皆さん、本当にありがとうございます。

白倉 ひなたさんのご家族

五年間、大変お世話になりました。最初はおっかなびっくりだったことも、通所での様々な経験により徐々にできるようになり、わが子の成長を間近で感じる事ができました。また、同じ時間を過ごしたお友達やご家族とともに笑ったり一緒に感動できたことも、かけがえのない思い出です。

そして、いつも私たちに寄り添いながら背中を押してくださった先生方や職員の皆様には、感謝の気持ち

でいっぱいです。幸せな時間をありがとうございました。

おすすめ絵本の紹介

小児科医長 中山 有美



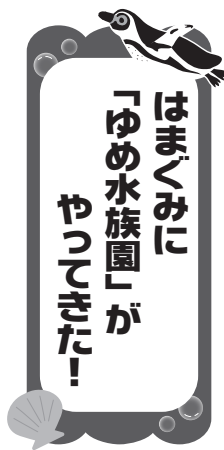
「こんとあき」

作：林 明子 出版社：福音館書店

きつねのぬいぐるみのこんは、産まれてくるあきへのプレゼントとして、さきゆうまちからやってきました。こんとあきはすぐ仲良くなって、たくさん一緒に遊びます。おかげでこんはすっかりポロポロに。そうだ、さきゆうまちのおばあちゃんに直してもらおう！ふたりのさきゆうまちへの大冒険が始まります。

この道中の全てが愛おしく、たまらない気持ちになるのは私だけでしょうか。特に電車でトラブルに見舞われたこんがあきにかける「だいじょうぶだいじょうぶ、お弁当まだあったかいよ」には、胸がキューンとしました。あーまた読みたくなってきました。大人も何度でも読みたくなる、愛おしさであふれる絵本です。





「はまぐみに
「ゆめ水族園」が
やってきた！」

見慣れた、いつものはまぐみの空
間に、ペンギンが、イワシが、イカ
が…泳いでる!?

皆さんは「プロジェクションマッ
ピング」を御存じでしょうか? 壁や
建物に映像を上映している「アレ」
です。

それを用いて、水中を泳ぐペンギ
ンが、群れを成して円を描くように
泳ぐイワシが、透き通るような姿を
したイカが…いつもの見慣れたはま
ぐみの壁に、天井に、床に映し出され
あつという間に水族園が誕生しまし
た。

この優雅に流れる映像とその映像
にマッチした音楽が流れる空間に足
を踏み入れた方々からは「わあ、き
れい」「本物のお魚みたい」「ずっと
この空間にいたい」との声が聞かれ
本物さながらの魚を捕まえようと
したり、癒されて眠ってしまったら、
思い思いに楽しまれていました。

これはエプソンが行っている「ゆ
め水族園」というもので、映像、音楽、
揺れるスクリーンを組み合わせて、
柔らかな空間を作り、視覚、聴覚、
触覚を通して豊かな感覚刺激体験を
お届けするもので、全国の特別支援

学校や病院など、外出が難しい方が
多い施設を中心に開催されている活
動です。

はまぐみの利用者の方々の中には
障害が重く、外出が容易ではない方
もたくさんいます。そういった方も
ストレッチャ
や車椅子のまま、
楽しむことがで
きました。

ぜひ、またこ
のような機会を
持つことができ
るといいですね

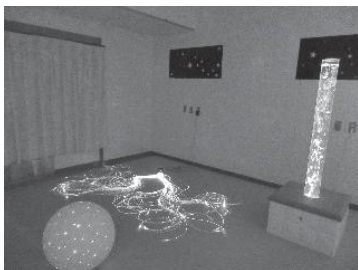


ご寄贈
ありがとうございました

かつて学童期にはまぐみ学園に在
籍されておられました久住恵理子様
から、当センターに、グラビティチェ
ア(姿勢保持椅子)、スノーズレン
用品のご寄付をいただき、各部署に
て活用させていただいております。

今回は、スノーズレンを楽しむ様
子をご紹介します。

長く大きな筒に水が入っていて、
スイッチを入れると優しい光ととも
にポコポコと空気がたくさん出てく
る「バブルチューブ」、天の川のよ
うな素敵な光の流れを作ることがで
きる「ミルキーウェイ」、そして球
体のフォルムで惑星のような淡い光
と星のような細やかな灯りが特徴の
「光る惑星 ジュピター」。この三つ
を、暗いお部屋に配置すると、とて
も幻想的で、リラクセスできる空間
のできあがりです。



右：バブルチューブ
中：ミルキーウェイ
左下：ジュピター

優しい音楽やバブルチューブの水
の音に耳を澄ませながら、幻想的な
光を遠くから眺めたり、手を伸ばし
て触れてみ
たり…。み
なさん、思
い思いに楽
しまれてい
ます。



ミルキーウェイで心を作り、
キョートな写真
を撮られていた
方もいましたよ。
久住様、素敵
なご寄付をいた
だき、ありがと
うございました。



苦情解決の状況

令和7年4月から令和8年1月ま
でに9件の御意見が寄せられまし
た。
内容は、「設備・環境に関するもの」
6件、「接遇・コミュニケーション
に関するもの」2件、「その他」1
件でした。いただいた御意見をもと
に、気持ちよく利用していただける
センターとなるよう努めて参りま
す。
お気づきのことがありましたら、
正面玄関、薬局前、談話室に設置し
てある意見箱に御意見をお寄せくだ
さい。